

1 学校の教育目標

練馬区立南が丘中学校は新しい時代を切り拓く心豊かでたくましい人間を育てる。そのためには、知性を磨き個性を伸ばす教育を推進することが必要である。学校は子供のためにある。公立学校としての責務を果たすために、知・徳・体のバランスのとれた質の高い教育を実践し心豊かでたくましい人間を育てる。

教育目標

- | |
|-------------------------|
| (知) 進んで学び、深く考え積極的に行動する人 |
| (徳) 思いやりの心を持ち、互いに協力する人 |
| (体) 心身ともに健康で創造力のある人 |

2 目指す生徒像・学校像・教職員像

- 生徒像 「自分で考え行動し、実践に責任をもてる生徒」
学校像 「学校にかかわる全ての人自己実現できる学校」
教職員像 「教育公務員としての自覚を持ち、絶えず研修・研鑽に努める教職員」
「学びの楽しさと知識や技術を具体的にわかりやすく活用できるよう伝える教職員」

3 基本方針

学ぶにあふれ 自律した社会人への基礎を築ける学校

生徒一人一人が「明日も学校に行きたい」「友達や先生と一緒に学びたい」と感じられ、将来へのあり方を創造・想像でき、それに向け社会人として自律できる力をつける学校が、求められる学校と考える。この求められる学校像を明確にし、学校づくりを進める。

本校の教育活動を通して、社会の一員として必要となる力、「生きる力」を育成する。生涯において学びを続けられる力を身に付け、多様性を認め他者と協働し、自律した社会の一員となる自己実現を目指す人間像を育成目標として、教員の授業を中心とした教育活動の改善を進め学校経営を行う。

【生徒の育成目標】

- (1) 心に余裕と笑顔をもった品格あふれる生徒
- (2) 人の気持ちを考え、自分の気持ちにも気づき行動できる思いやりのある生徒
- (3) 勇気ある判断で責任を果たし行動できる生徒
- (4) 失敗を恐れず、新しい物事に挑む方策を求め学び続ける姿勢をもつ生徒
- (5) どんな時でも心からの感謝の気持ちを表現できる生徒

5 学校の教育目標を具現化し、目指す生徒像にせまるための基本方針

(1) 確かな学力の定着と向上

学習の基礎となる聞く力、話す力を育てるために「聴く」態度を確実に身に付ける。体験活動を重視し課題を発見し、自ら学び考え、その結果を自分の言葉で表現・伝える力を培うとともに、日常生活においてそれらを態度化できる力を育てる。課題解決に必要な力を育成するために、小中一貫教育をより一

層推進するとともに、研修の機会を活用しつつ、教員が校種を超えて授業改善を行うことで、「子供たちが分かった、できた」と実感できる授業実践を推進する。特に、生徒が考える時間を十分確保し、自分の考えを自分の言葉で表現し相手に確実に伝える学習活動を意図的・計画的に行う。また、生徒がタブレットPCを筆記用具として使えるように、全教員がICT機器・タブレットを効果的に活用した授業を月に一回(全教員が年9回以上)は行う。思考力・表現力の育成として、授業においては小グループでの意見交換、理由等紐強を明確にしめした考えや意見の発表場面を効果的に活用する。

(2) 豊かな人間性の育成

毎日のあいさつを基本とし、生徒相互・教員相互・生徒と教員間における適切な言語環境のもとで豊かな心を培う。教育活動全般において心の教育を大切にし、道徳的判断力を育成したうえで道徳的実践力の向上を図る。人権尊重の精神に基づく教育を全教職員で推進するとともに、いじめは許されない行為であり、いじめをしないさせないを合い言葉に、いじめの早期発見早期解決に努める。また、特別支援教育への理解をより一層深め、生徒一人一人の実態を把握し、発達段階に応じた個別最適化な指導が行えるようにする。さらに、整理・整頓の行き届いた学校環境をつくり、教員と生徒がともに関わり合い・学び合い・高め合うことのできる温かみのある人間関係と信頼関係を相互に築く。そうした中で豊かな感性を育てる。

(3) 心身の健康と体力の向上

健康でたくましい心身を作るために、授業としての保健体育科の充実を図る。全校をあげて新体力テストの結果を最大限に活用し、持久力の向上に向けての取組を推進する。また、健全で堅固な心身の育成には食育の担う役割は大きい。食育を一層推進し、保護者の食への関心を高め、家庭と連携を図り正しい健康的な生活を実現できるように働きかける。基本的な生活リズムを確立させ、バランスのとれた食事、十分な睡眠をとらせる指導を工夫する。

授業においては総合的な学習の時間や特別な教科道徳を中心に、特別活動や部活動等の異年齢集団での多様な生徒との関わりを通して心の健全な成長を促す。

(4) 開かれた学校づくり

学校、家庭、地域がそれぞれの役割を自覚し、協力し合いながら子供を育ていくことは大切である。そのために学校は目指す生徒像を明確にし、その育成のための取組みや成果を家庭や地域にHPや学校便り等を活用して積極的に公表していく。また、家庭や地域の協力を促し、共に考えながら同じ価値観を共有し生徒を育てていけるようにする。さらに地域人材として教育ボランティアを授業で有効に活用することで地域の教育力を学校教育に最大限に生かすようにする。このような取組みを行うことで地域に愛され家庭に支えられる学校を創造し、子供たちの「確かな学力・生きる力」の育成を行う。

6 本年度の重点目標と方策

(1) 言語活動の充実を通して確かな学力の定着と向上を図る

①一単位時間における学習のねらいを明確に生徒へ示し、学習状況の達成状況を確実に評価する。

生徒の授業の振り返りシートを活用し、それら内容を評価に取り入れる。(授業満足度 85%)

②言語活動を通して課題解決能力を高め、思考力・判断力・表現力の向上を図る。

発表・報告・コンテスト活動等を活用し、全教科においてパフォーマンス力を高める。

国語 ビブリオバトル、英語 英語スピーチコンテスト、

音楽 合唱コンクール、体育 運動会、

技術・家庭、美術 作品の展示、区・都の作品展への出品 など

上記は一例として、各教科の目玉となる活動を示した。日常の授業活動では、生徒が自身の考え、他者との違いなど根拠を上げながら説明したり学びを要約したりするなどして、思考を表現しあいお互いに学びを深める時間を設ける。

③保護者と協力し学年で設定した家庭学習の習慣を定着させる。(家庭学習の定着率60%)

長期休業期間の家庭学習習慣定着のための取組を行う。家庭学習定着をはかるための確認テストを年3回(4・9・1月)実施し、その結果を表彰するなど学びに目的を持たせる活動を行う。

※認定基準 家庭学習取組が80%かつ確認テスト8割以上を満たす。

④学習意欲・自己肯定感の向上を図るために、学習方法を身に付け学力向上の成果を上げる。

生徒の中には、具体的な学習方法が確立していない生徒も少なくない。調べ学習や教科担当からの情報提供を通して、自分に合った学習方法の定着も図る。

全校でビジョントレーニングを行い、視覚情報を受け取りやすくするとともに集中力を高める。

(2) 豊かな心を育て、互いを尊重し合い高め合う人間関係をつくる。(あじみこし運動の深化)

①全ての教職員・生徒が、時と場所と場合に応じて笑顔で挨拶ができる活動をさらに推し進める。

②言語環境を整え適切な言葉遣いで話し合い活動ができるようにする。

③生徒一人一人が自他を認め、自己肯定感を感じるとともに、授業以外の様々な活動をお互いに協力することで、自己有用感や学校へ所属意識を高める。

(学級活動、委員会活動、清掃や給食などの当番活動、部活動などを通して)

④全生徒にいじめの実態調査を年間3回実施しいじめの未然防止に努めるとともに、トーキングタイムや長期休業明けの振り返りを活用し、いじめや登校への不安の早期発見・早期解決を図る。

⑤学校施設が教育活動にふさわしい場となるように清掃活動に力を入れる。特に教室の整理整頓に重点を置いて取り組む。

(3) 体力向上のための計画的な取組みによる健やかな心と体づくり

①体育科の授業において体力向上及び運動能力向上に向け、意図的・計画的に学習を進めるとともに、十分な運動量を確保できるような授業改善に取り組む。

②一人一人が目標をもちそれに向かって体を鍛え、体力及び運動能力の向上を実感できる取組(運動会・パフォーマンス)を充実させる。(連合陸上・連合ダンスなど)

③給食指導を通じて食育を推進するとともに、各教科での学習、講話により保護者の協力のもとに食に関する関心を高め、児童の健康づくりを推進する。心身の調和ある発達を図る健康教育を進める。食育を推進する。(お弁当の日・給食献立作成コンクール)

④安全を最優先し、危機管理体制を高める。(様々な設定での訓練による防災対応、不審者対応、食物アレルギー対応)アレルギーに関する合理的配慮事項を構築する。

⑤生徒の安全意識の向上、安全・安心な学校づくりのため、セーフティ教室、情報モラル講習会、薬物乱用防止教室等の内容充実を図り、保護者との共同学習の場としての企画・運営を推進する。

⑥健康で安全な学校環境をつくるためにも、新型コロナウイルス感染症への対応は生徒・教職員・保護者等、学校に関わる全てが意識し関わりながら進める。

(4) 特別支援教育や個別最適化指導・支援の充実

①E組との交流・共同学習の実践として、ビジョントレーニングの導入やパラリンピック競技を一緒に体験するなど計画する。

②生徒の個性に応じた合理的な配慮を行い、日常的に特別支援教育を推進する。

③適応推進委員会の機能を高め、個別最適な支援を進め不登校生徒の解消に積極的に取り組む。

- ④スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等、外部機関との連携を強化し、多角的な支援を受け、生徒の自律を支えていく。
- ④ユニバーサルデザイン考えや技法を授業に導入することで、通常学級における特別支援教育の充実を図り、分かる授業を推進する。
- ⑤特別支援学級担任と巡回指導教員との指導技術交流を推進する。
- ⑥通常学級担任と巡回指導教員との研修会を活用し、個別指導計画・個別支援計画の作成・活用による成果を上げる。

(5) 教員の授業力向上や教育課題の理解を目的としたOJTや校内研修の実践

- ①教員の授業力・ICT活用能力の向上を図るために相互の授業見学や授業支援をOJTとして行う。
- ②校内研修の活性化を図り、教員の授業力に関する課題改善の成果を追究する。
校内研修キャリアパスポートを作成し、ポートフォリオ化し教員のスキルアップを推進する。
研修の成果を数値化しフィードバックすることで、毎年の自己啓発課題をとらえ職務に反映させていく。